

第1章 総論

基本理念と目指す姿

1 基本理念

将来にわたって、「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思える広島県の実現

安心して、生き生きと暮らし、幸せを実現させたいと願う思いは不変のものであり、こうした願いの実現は、県民一人一人の希望でもあります。

想定を上回るペースで進む人口減少、グローバル化の進展、デジタル技術の革新など、大きく社会経済情勢が変化する時代の中で、広島県は、県民が夢と希望を持てる経済的基盤を確立し、その豊かさを実感しながら、一人一人が安心して健康に、生きがいを持って暮らすことができる社会、一人一人がそれぞれの価値観に基づいた満足を実現できる社会を目指しています。

このような社会を実現できれば、日常生活、経済活動等の様々な局面で、また、出産、子育て、就学、就職など、ライフサイクルにおける様々な場面において、広島県を選択していただくことができ、国内外から更に多くの人々が集うことが期待できます。

こうした観点から、引き続き、地域社会全体の価値を高め、発展させることで、将来にわたって、「広島に生まれて良かった」、「広島で育って良かった」、「広島に住んで良かった」、「広島で働いて良かった」、さらには、「広島を訪れて良かった」と心から思える広島県の実現をビジョンの基本理念とします。



2 目指す姿

県民一人一人が「安心」の土台と「誇り」により、
夢や希望に「挑戦」しています
～仕事も暮らしも。里もまちも。それぞれが望むライフスタイルの実現～

県民の挑戦を後押し

先行きが不透明な時代においても、県民一人一人の生活の基軸は、家庭や仕事、趣味などの充実であることに変わりありません。

県民一人一人が暮らす環境や立場は、それぞれ異なりますが、まずは、県民が抱く不安を軽減して、「安心」につなげるとともに、県民の「誇り」につなげる強みを伸ばして、「安心」の土台と「誇り」の高まりにより、県内どこに住んでいても、県民一人一人が、夢や希望に挑戦できている社会の実現を目指します。

また、近年のDXの進展や働き方の多様化により、仕事と暮らしを一体的に考える柔軟な働き方が個人の幸福や生産性向上の実現に不可欠になってきています。

こうした新しい社会においても、引き続き、県民の皆様が抱く夢や希望をあきらめることなく、将来に向けて、更なる一歩を踏み出す様々な挑戦の後押しを進めることで、県民一人一人が自分らしい生き方を選択でき、それぞれが望むライフスタイルの実現につなげていきます。

適散・適集な地域づくり

また、将来にわたり発展し続けるため、本県の強みである「都市と自然の近接性」を最大限生かした、自然豊かで心身が癒される適切な分散と、イノベーションを創出する知の集積や集合をうまく組み合わせ、それらを思いのままに行き来できる適散・適集な地域づくりを進めます。

目指す姿の実現に向けた基本的な考え方

1 県民の挑戦を後押し

県民が抱く不安を軽減し「安心」につなげる

人口減少と少子化・高齢化の進展や地域経済の成熟化に加え、将来に対する先行きの不透明感が増す中、県民の皆様は、結婚や出産、子育て、教育、雇用、医療・介護・福祉、健康など、将来に対する様々な不安を抱きながら生活しています。

本県が令和7年3月に実施した「現在の生活と将来に対する県民意識調査」においても、多くの県民は生活に満足はしているものの、その約6割は何らかの不安を感じていること、また、年齢に関係なく、どの世代においても高い割合で不安を感じていることが判明しました。

さらに近年、全国各地で大規模な自然災害が相次いでいることや、急激に進む人口減少による生活を支える機能やサービスの縮小への懸念など、様々な不安に囲まれています。

県民の皆様とともに、今後の新たな広島県づくりを推し進めるためには、県民一人一人に、今後歩んでいく将来に対して、夢や希望を持っていただくことが何よりも重要であり、そのためにはまず、県民の皆様が抱いている様々な不安を軽減し、「安心」につなげていくことが必要です。

県民の皆様が抱く不安を「安心」に変えていくためには、

- 様々な分野でイノベーションを起こすことなどにより、不安要素そのものを取り除いていくこと
- 多様なセーフティネットの構築や、多様な選択肢のある環境をつくりだすことにより、自己肯定感を醸成し、向上させていくこと
- 乳幼児期から社会人までの一貫した学びと人材育成を行うことにより、自己能力を強化し、その能力を社会で発揮していくこと
- 尊重し合いながら安心して暮らせる地域社会の実現に向けて多様性を認め合い、支え合う地域共生社会を推進していくこと

などの観点から検討を進めていくことが必要です。

このため、こうした考え方をひろしまビジョンの基礎に置き、県民一人一人が安心して暮らすことができる社会づくりを進めていきます。

県民の「誇り」につなげる強みを伸ばす

本県は、瀬戸内海の大小無数の島々が織りなす多島美や、国内外から多くの人が集う「厳島神社」「原爆ドーム」の2つの世界遺産など世界的な強みを有しています。

また、日本一の生産量を誇る牡蠣やレモン、三大銘醸地の一つであり独自の醸造技術により発展してきた日本酒、県内外の方々に愛されるお好み焼などの食文化、広島東洋カープやサンフレッチェ広島をはじめとした地域に根差した多くのトップチーム、広島交響楽団や神楽等の豊かな自然や歴史、風土に培われてきた特色ある文化芸術や、都市と自然の近接性を生かした多彩なスポーツ・文化の魅力を楽しめるポテンシャルなど、他県にはない独自の強みを多数有しています。

さらに、ものづくり産業における世界トップレベルの技術の集積を生かし、グローバルな活動を展開する自動車産業をはじめ、「オンリーワン企業」「ナンバーワン企業」と呼ばれる多くの企業が存在しています。

これらは、本県がこれまで歩んできた歴史や豊かな自然環境の上に築かれ、国内外との交流等を通じた人の営みによって洗練され、深められてきました。

こうした広島の強みである多くの地域資源や魅力を県民が自信を持って語り、国内外における共感が深まることで、広島の存在感を実感することができれば、県民一人一人の「誇り」を高めることにつながるから、これらの強みを更に伸ばしていく必要があります。

また、広島は、人類史上初の原子爆弾による破壊と廃墟からの復興を経験した地として、「核兵器廃絶への信念」と「復興への確信と未来への希望」の2つのシンボル性を有しており、核兵器廃絶に向けた道徳的権威（モラルオーソリティ）として果たすべき使命と平和への期待が集う場所としての役割を発揮していくことが求められています。

このため、世界において、広島が、歴史上の悲劇の場所として知られるだけでなく、国際社会と連携して、その使命と役割を発揮し、積極的に国際平和に貢献する場所として、確固たる位置付けを持つことは、県民一人一人の「誇り」を高めることにつながります。

世界から平和に関する資源が集積して、平和のための活動が創出される広島の国際平和の拠点化が進むことに加えて、世界的な訴求力をもつ広島の知名度を生かして、様々な分野において、県民の挑戦を進めていくことで、「世界と直結し、世界に貢献し、世界が集う広島」として、グローバル社会における本県の存在感を更に高め、県民の更なる「誇り」を醸成していきます。

県民一人一人の夢や希望の実現に向けた「挑戦」を後押し

新たな広島県づくりは、行政による取組だけでは進めることはできないことから、個人・企業・団体など全ての県民の皆様と、目指す姿を共有し、共感をいただきながら、連携・協働して取り組んでいくことが重要です。

まずは、県民の皆様が抱いている様々な不安を軽減し、「安心」につなげる取組を進めていきます。

あわせて、瀬戸内海をはじめとする広島の宝や様々な地域資源により、国内外の共感を深めるとともに、広島が果たすべき使命と役割を発揮する取組を進めることにより、広島が世界の中で確固たる位置付けを確立し、県民一人一人の「誇り」を高めていきます。

これらの「安心」や「誇り」を原動力として、県民一人一人が、仕事も暮らしもどちらもあきらめることなく追求することができ、それぞれの夢や希望に「挑戦」できる基盤を築き、その様々な挑戦の後押しとなる取組を進めることで、県民の皆様と一体となって、新たな広島県づくりを推し進めていきます。

県民一人一人が、それぞれ抱く夢や希望をあきらめることなく、将来に向けて、更なる一步を踏み出すことにより、暮らしや仕事における安心感が更に高まり、また、広島の魅力や愛着が更なる誇りへとつながる好循環が生まれます。

こうした「それぞれが望むライフスタイルの実現」は、県民一人一人の働きがいと生きがいになり、さらに、それぞれの地域における活力を生み出し、県全体の発展、活性化につながります。

② 適散・適集な地域づくり

県民一人一人が抱く夢や希望の実現に向けては、県内のどこに住んでいても挑戦できる地域づくりを進めていく必要があります。

本県を日本全体から俯瞰すると、大阪と福岡の2大都市のほぼ中間に位置しており、中国・四国地方の発展を牽引する中枢県として、恵まれた地理的環境を有しています。

風光明媚な瀬戸内海やなだらかな中国山地など豊かな自然に恵まれ、古くからの交通・流通の要衝、産業の拠点、文化・教育の中心地としての道を歩んできました。

また、県内の各地域に目を向けると、都市部における都市機能の集積や充実した生活関連機能サービス、農山漁村における豊かな生活環境など、個性豊かで多様な地域で構成されており、それぞれの地域において、多彩なライフスタイルの実現を図ることができます。

さらに、都市と自然が程よく融合しており、四季を通じて楽しめる様々なスポーツやアクティビティ、歴史を感じさせる場所や街並みなど、多岐にわたった暮らしに関する資産を有しています。

このため、各地域が持つ豊かな自然や歴史・文化、産業集積などの力や宝を磨き、地域の魅力を最大化させるとともに、これらの魅力に対する県民理解を促進することにより、県民の皆様の地域への誇りと愛着を醸成していきます。

こうした中、新型コロナ危機を契機とした「空間」に対する新たな価値観は、本県の特徴である「密過ぎない都市」と「美しく自然豊かな中山間地域」による「都市と自然の近接性」と合致するものであり、本県の地理的特徴を最大限に活用するチャンスとなります。

新型コロナ危機後の社会が求める適切な分散と適切な集中に応じた地域づくりを進めることで、それぞれの地域が発展し、さらに、それらの地域が互いに支え合うことにより、県土全体の活性化を図り、持続可能な広島県の実現につなげていきます。

県全体の発展を牽引する魅力ある都市の形成

本県には、歴史的に形成された技術集積の土壌を生かした、先進的なものづくりやサービス、独創的なビジネスモデルを生み出す産業に関する資産があります。

とりわけ、広島市はこうした土壌を生かした技術の集積や、駅や港などの交通のゲートウェイ機能、高度な治療を受けられる医療機関のほか、大型商業施設や、大型の国内・国際会議等を開催するコンベンション施設、国際大会が開催できる体育館など、充実した都市機能を有しています。

また、少子化・高齢化による人口減少や、東京圏への一極集中が進む中において、本県が持続的な発展を成し遂げるには、賑わいを生み出す人の集まりや、イノベーションを創出するために必要な企業や大学等の多様な形での集積により、密度を高める必要があります。

そのためには、人口、産業、都市基盤など、あらゆる面で中国・四国地方最大の都市である広島市が、首都圏と比べて遜色のない高次都市機能を保有し、中枢拠点性をより一層向上させていくことが不可欠であり、また、このことは産業及び人口の流出を防ぐダム機能を発揮することにもなります。

こうした都市機能の強化は、備後圏域の中核都市である福山市においても、圏域全体の発展や県東部の経済成長の要として、広島市と同様に必要となります。

広島市と福山市の2つの都市が、県全体の発展の牽引役となるよう、県と両市が連携して、都市基盤の整備や都市機能の向上を進めるなど、人や企業を惹きつける魅力ある都市づくりに戦略的に取り組んでいきます。

さらに、こうした集積や集合によって創り出された知を、地域へ伝播し、進化させることで、本県全土の持続的な発展につなげていきます。

自然豊かで分散を生かした中山間地域の形成

県土の約7割を占める中山間地域では、豊かな自然環境に恵まれた中国山地や瀬戸内の多島美を誇る島しょ地域の多様な文化などを有しています。

その自然景観や伝統的な民族芸能は、広く県民に潤いや四季折々の季節感を与えるとともに、県土の保全や水源のかん養、安全・安心な農林水産物の供給といった、日常生活に欠かすことのできない多面的な機能や役割を担っています。

中山間地域では、若年層を中心とした人口の流出を背景に、集落の小規模化や高齢化が大きく進み、基幹産業としての農林水産業の担い手不足や、空き家・耕作放棄地の増加、医師不足や生活交通の縮小など、地域コミュニティを維持していく上で、深刻かつ厳しい状況に直面しています。

さらに、将来を展望すると、中山間地域における人口減少や高齢化は、都市部と比較して、加速度的に進行することが見込まれており、地域によってはコミュニティの維持そのものが困難な状況になることも懸念されます。

こうした状況を克服し、将来に向けて持続可能な中山間地域を実現していくため、本県では、平成25年に「広島県中山間地域振興条例」を制定しました。

この条例に基づき、平成26年に「広島県中山間地域振興計画」を、令和3年に「第Ⅱ期広島県中山間地域振興計画」を策定し、活性化の原動力となる「人」、生活の糧を得る「仕事」、安心な暮らしを支える「生活環境」の3つの分野を施策の柱として、県民、市町、県が連携・協働しながら総合的な取組を進めてきたところです。また、中山間地域の集落が今後直面することが見込まれる地域の変化に鑑み、市町との密接な連携のもと、あらゆる主体が一体となった集落対策に取り組んでいるところです。

中山間地域が持つ魅力ある自然と、都市や空港との近接性を、新型コロナ危機後の適散・適集社会に生かすことは、仕事と暮らしをより充実させたいと考える県内外の多様な人々から選択されるチャンスとなります。

こうした環境変化も踏まえ、中山間地域が次世代にわたって安心して暮らすことができる持続可能な地域社会であり続けるために、デジタル技術等の様々な革新的技術も最大限活用して、地域産業の維持・発展や、生活サービスの確保など、安心して暮らせる環境に向けた対策を、より一層強化していきます。

用語解説

コンベンション施設…会議や見本市などの大規模な催しを行うことのできるホールや展示場などの施設。

目指す姿の実現に向けた 今後5年間の方向性

利便性の高い集約型都市構造の形成

本県は、充実した都市機能を有する地域(中枢拠点地域)と山や海の豊かな自然を有する地域(中山間地域)が近接し、多くの県民がこれらの2つをつなぐ地域に暮らしています。

こうした地域においては、都市生活と自然が程よく融合するとともに、井桁状に走る高速道路網をはじめとする交通網の整備などにより、地域住民の日常の買い物や医療など、生活に欠かすことのできないサービスが集積し、居住区域と一体となって発展しています。

このような生活機能が集積し、拠点となる地域は、その周辺に位置する中山間地域における生活維持に重要な役割を果たしています。

しかしながら、人口減少と少子化・高齢化の進行に伴い、都市部においても、市街地での居住の低密度化が顕在化するなど、生活サービスの機能維持が困難になっています。

さらに、高度経済成長期における住宅ニーズに応えるため、人口が集中した市街地周辺にある山すそに多くの住宅地が造成されてきましたが、これらの住宅地の一部は、土砂災害警戒区域等の災害リスクの高い区域となっています。

このため、中長期的な視点により、都市機能や居住の集約を進め、生活に必要なサービスを提供する事業者が日常の生活範囲に存在するなど、災害にも強く、コンパクトで利便性の高い市街地や集落を形成し、これらの地域を結ぶ最適な交通基盤や公共交通ネットワークの構築を進めていきます。

また、新型コロナ危機後の社会が求める適切な分散と適切な集中をうまく組み合わせながら、持続可能な地域づくりを進めていきます。

シン・ファミリーフレンドリー “家族で暮らしやすいまちは、誰もが暮らしやすい”

本県の魅力を高め、様々な家族が暮らしやすい社会を実現することは、誰にとっても暮らしやすい社会につながります。ひいては、本県を訪れる人にとっても、本県に関わる人にとっても、魅力的に感じてもらえる「シン・ファミリーフレンドリー」な広島県を創っていきます。

※ ここでいう「家族」とは、子供の有無や人数、性別に関わらず、様々な形態の家族をいい、こうした家族が暮らしやすい社会を実現することで、県民一人一人が暮らしやすい社会につなげたいという考え方です。

目指す姿の実現に向けた施策の考え方と5つの柱

今後5年間を見据えては、目指す姿の実現に向けた基本的な考え方である「県民の挑戦を後押し」と「適散・適集な地域づくり」を前提に、今後5年間の方向性「シン・ファミリーフレンドリー “家族で暮らしやすいまちは、誰もが暮らしやすい”」のもと、次の考え方で取り組んでいきます。

- 県民一人一人が、仕事、結婚、妊娠・出産、子育てなど、希望する将来のライフデザインを実現することができ、子供・若者が健やかに夢を育むことができる必要があります。
- その前提として、頻発化する大規模災害や複雑化する犯罪などの不安が軽減され、心身ともに健康で、安全・安心な生活を送ることができることが不可欠です。
- また、日々の暮らしの中で、充実感を得るためには、広島ならではの地域資源を生かした魅力を楽しみ、誇りを感じられることが必要です。
- さらに、若者や子育て世代をはじめとした、あらゆる世代の人々が、それぞれの夢や希望に挑戦し、生き生きと活躍できることも重要です。
- こうした生きがいや働きがいを県内のどこに住んでいても、そして将来にわたって感じられるよう、本県の強みである「都市と自然の近接性」を生かし、適散・適集な地域の魅力を更に磨き上げる必要があります。

このような観点から、

「未来を担う人づくりと、安心して子供をもち育てられる社会づくり」
「心身ともに健康で、安全・安心な生活を送ることができる環境づくり」
「あらゆる世代が楽しみ、地域に誇りを持つことができる魅力づくり」
「多様な主体が、生き生きと働きがいをもって活躍できる仕事づくり」
「都市と自然の近接性を生かした、適散・適集な魅力ある地域づくり」

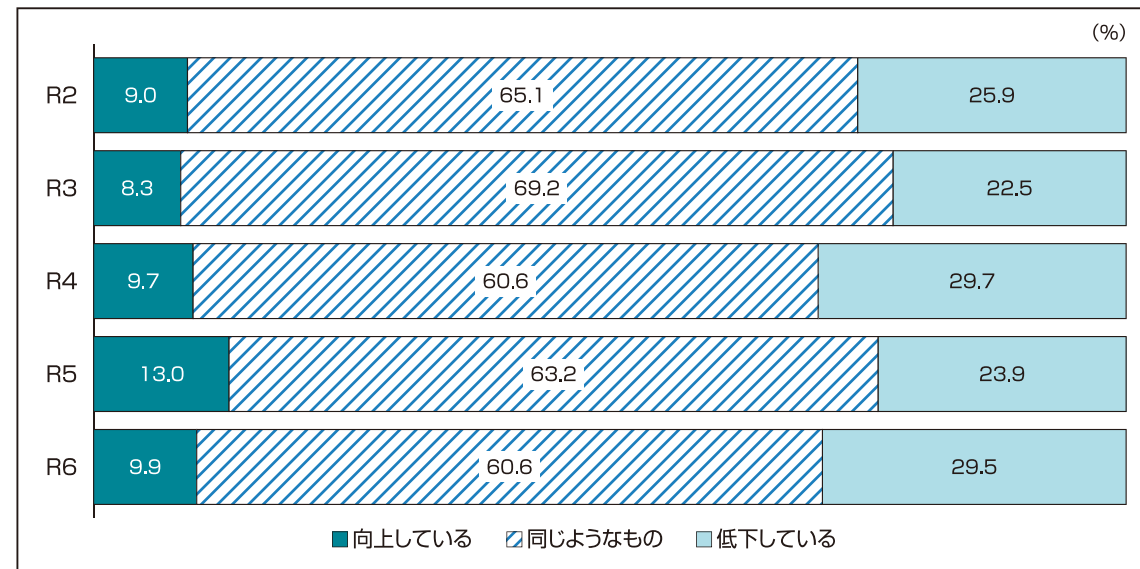
の5つを、ひろしまビジョンに掲げる目指す姿の実現に向けた施策の柱とし、17の施策領域において総合的に取り組んでいきます。

注視する指標

ビジョンに掲げた基本理念及び目指す姿への進捗を検証していくため、次の指標の推移を注視していきます。

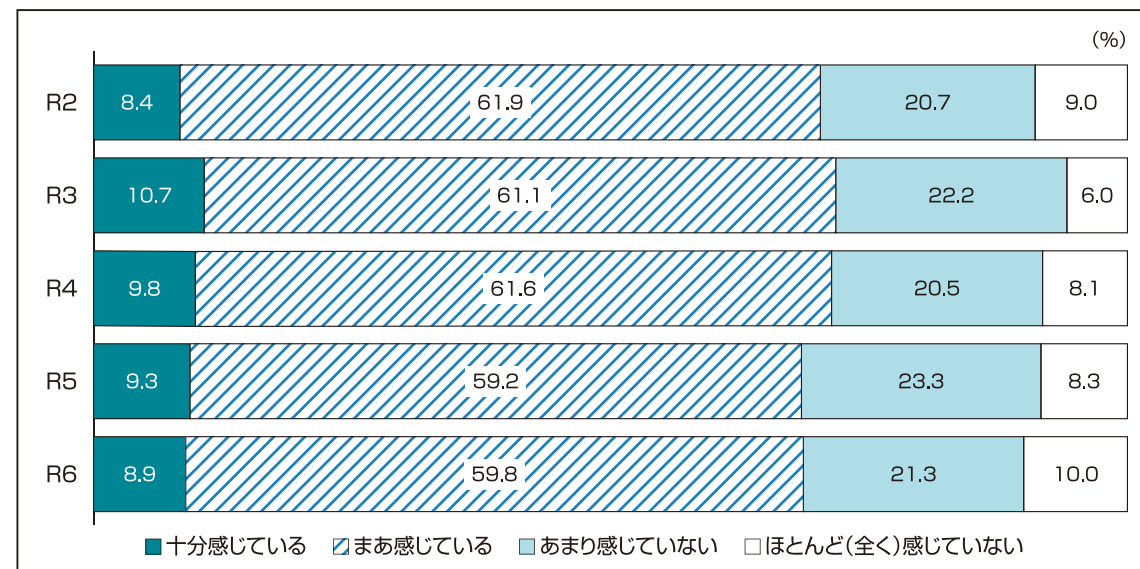
- ① 去年と比べた生活の向上感
- ② 現在の生活の充実感
- ③ 県内の総人口
- ④ 県内総生産(名目)
- ⑤ 一人当たり県民所得

① 去年と比べた生活の向上感



(出典)広島県「生活の向上感・充実感等に関する意識調査」

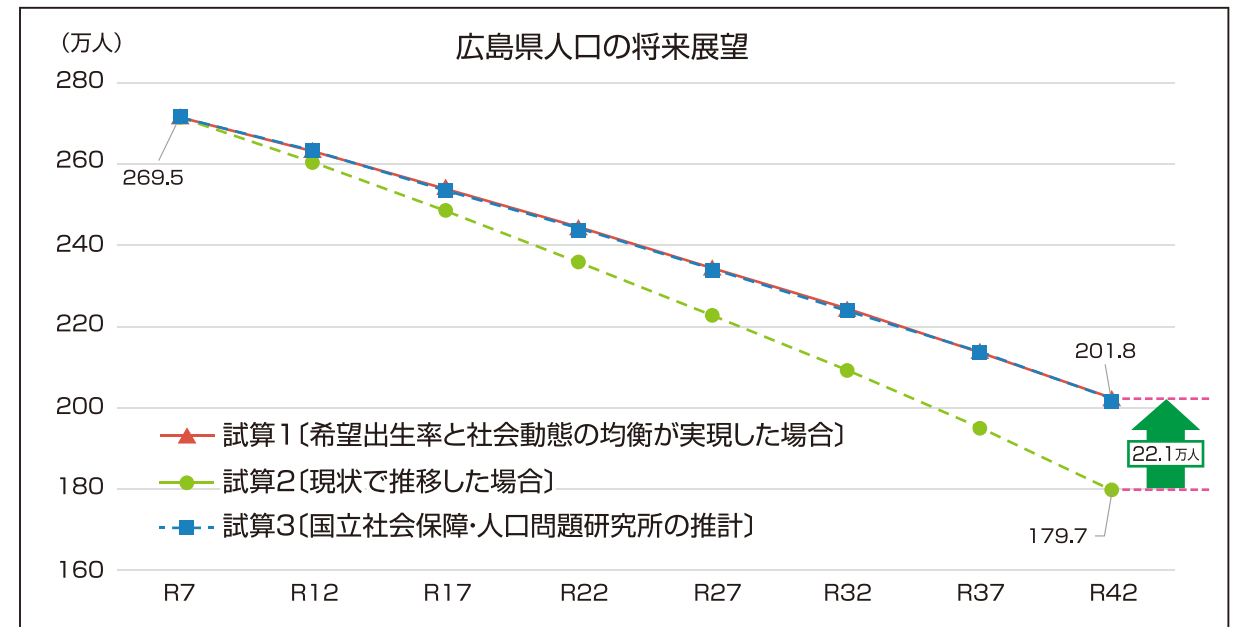
② 現在の生活の充実感



(出典)広島県「生活の向上感・充実感等に関する意識調査」

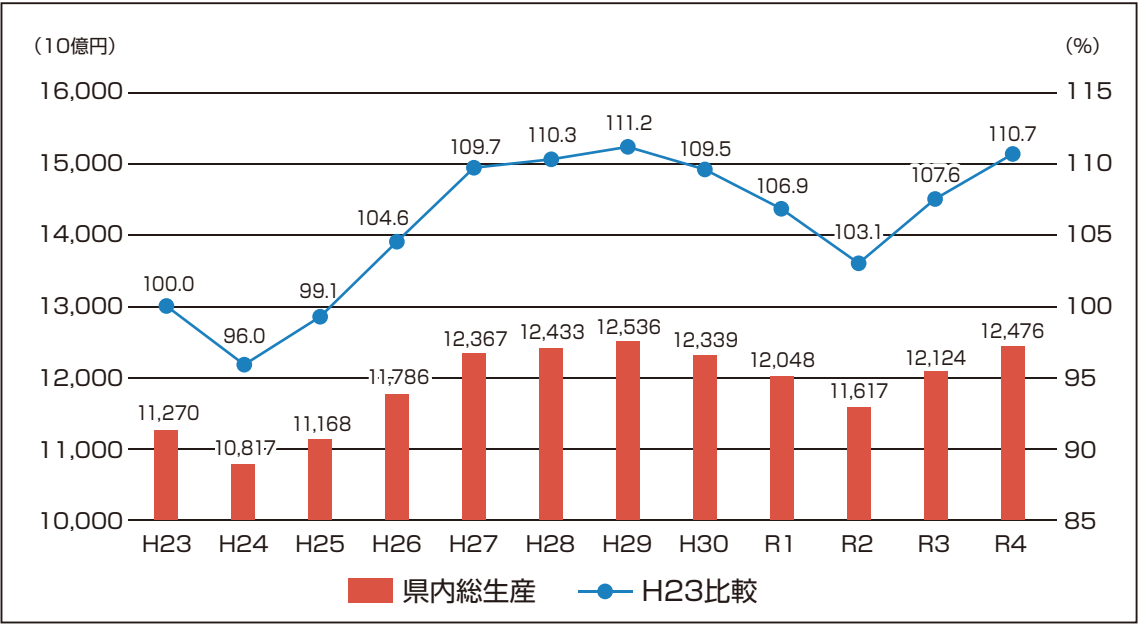
③ 県内の総人口

令和12年の「希望出生率の実現」と「社会動態の均衡の実現」に向け、施策を推進していきます。



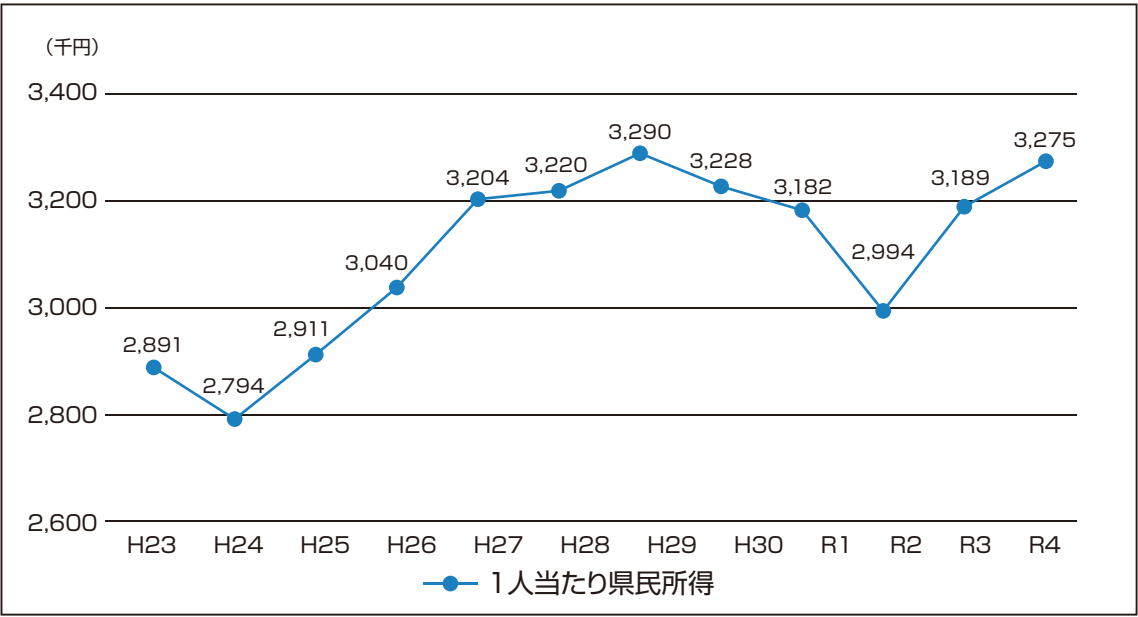
試算の条件	
試算1	〔希望出生率と社会動態の均衡が実現した場合〕 試算2をベースに、県民の希望出生率と社会移動に関する希望を踏まえて試算 ・合計特殊出生率は、令和12年に県民希望出生率1.54が実現すると仮定 ・社会動態は令和12年を境に、推計期間を通じて均衡すると仮定
試算2	〔現状で推移した場合〕 試算3をベースに、直近の人口動態を踏まえて試算 ・合計特殊出生率は、1.29で推移 ・社会動態は、直近3年間平均である、約1,900人の転出超過が継続すると仮定
試算3	〔国立社会保障・人口問題研究所の推計〕 ・合計特殊出生率は、1.41～1.51で推移 ・社会動態は、令和7年から12年までに転入超過に転じ、推計期間を通じて転入超過で推移

④ 県内総生産(名目)



(出典)内閣府「県民経済計算」※

⑤ 一人当たり県民所得



(出典)内閣府「県民経済計算」※

※県民経済計算は、最新の統計調査の結果の公表、推計方法の見直し等に対応し、過去に遡及して計数を改定している。このため、過去の公表数値と異なっている場合がある。